

ヴォーリスの建築への思い

自己宣伝するための広告塔や博物館向きの作品のように設計すべきではなく、建築依頼者の需に応じて住み心地のよい健康を護るにより能率的建物を設計すること。

建物の品格は、人間の人格の如く、その外装よりもむしろ内容にある。

(ヴォーリスの言葉：『ヴォーリス建築事務所作品集』序言より)

ヴォーリスが、建築というものの基本原理として一貫して守り続けてきたことは、建築家は、建築主の意を汲み奉仕者となるべきだということである。その原理に立って、彼の最大の関心は、様式、意匠、装飾よりもあくまで住む人の健康と、家としてのよい環境に向けられていた。ヴォーリスの建築物は、彼の言葉そのままに残っている。



設計指導するヴォーリス



サンポーチのある施工直後のハイド記念館 1931 年

入館時間 10:00~16:00
 入館料 500円 ※高校生以下無料
 休館日 月曜日、年末年始(12/25~1/8)
 交通案内 近江バス・・・JR近江八幡駅より
 ⑥番乗り場：長命寺線
 ⑦番乗り場：八幡市内線
 「鍛冶屋町」または「学園前」下車



VHK_HOZON



ヴォーリス学園本館



ハイド記念館 入口



入館にあたってのお願い

- キャンパス内は禁煙となっております。
- 教育施設と隣接しておりますので、ご配慮ください。



学校法人 ヴォーリス学園
 Vories Gakuen

〒523-0851 滋賀県近江八幡市市井町177
 TEL: 0748-32-3444 FAX: 0748-32-3974
www.vories.ac.jp/

登録有形文化財

ハイド記念館 教育会館



ハイド記念館・教育会館の由来

1905（明治 38）年 2 月 2 日午後 3 時半ごろ、ウィリアム・メレル・ヴォーリズは、寒い北風の吹く八幡駅に降り立った。彼は、県立商業学校（現八幡商業高等学校）の他に、膳所中学、彦根中学、長浜農学校でも英語を教え、各々にバイブルクラスを開いたが、2 年後キリスト教の影響力を恐れた人々の圧力により契約を打ち切られた。しかし、彼は八幡に留まりキリスト教の福音教を中心目的とする近江ミッション（現近江兄弟社）を興した。

職を失ったヴォーリズは建築設計技師として自活の道を得た。さらに、1913（大正 2）年、家庭薬メンソレータムの発明者 A.A. ハイド氏を米国コロラド州に訪ね、日本での製造販売権を与えられた。建築設計とメンソレータム（現近江兄弟社メンターム）で得た利益の大部分を近江ミッションに寄付し、宣教・医療・教育の事業を行った。

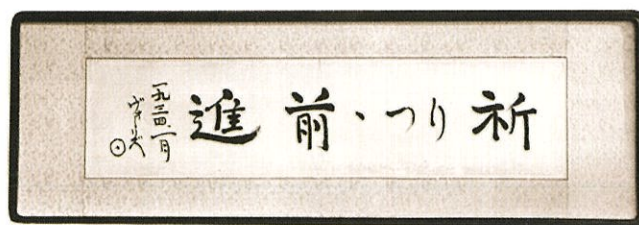
ヴォーリズが一柳満喜子と結婚したのは、1919（大正 8）年である。満喜子夫人は、1920（大正 9）年に蒲生郡八幡町池田町のプレイグラウンドの園長となり、1922（大正 11）年 8 月 23 日に清友園幼稚園を開設した。

1927（昭和 2）年、満喜子は北米の幼児教育を視察した際にハイド夫人を訪ね、日本における教育事業の計画を語り合った。1930（昭和 5）年、ハイド夫妻により寄付金 3 万ドルが送金されてきたときにはハイド夫人はすでに病床にあった。翌 1931（昭和 6）年ハイド夫人を記念して、当地市井町に幼稚園舎と教育会館が建てられた。

（ヴォーリズ建築事務所設計、清水建設施工）



開設当時、スチーム暖房が設置された 2 階保健室



ヴォーリズ夫妻

1941（昭和 16）年ヴォーリズは帰化して、一柳米来留と名乗った。米来留とは「米国より来て留まる」という意味である。一柳米来留は 1958（昭和 33）年、近江八幡市名誉市民第 1 号に選ばれた。1964（昭和 39）年召天。満喜子は 1969（昭和 44）年に天に召された。近年、ヴォーリズ建築の評価が高まり、2000（平成 12）年、幼稚園舎・教育会館が国の有形文化財に登録された。その際、ハイド氏夫妻を顕彰し、当園舎の名称を『ハイド記念館』とした。2003（平成 15）年、幼稚園は新校舎が建設され、移転した。



教育会館 内部

A.A. ハイド氏のこと



ハイド夫妻

1913（大正 2）年の夏、ヴォーリズは彼を生涯支えた吉田悦蔵と共に、ハイド氏をコロラド州エステスパークの別荘を訪ねた。二人は、ここで初めて世界的に有名な家庭薬メンソレータムの発明の苦心談を聞いた。

ハイド氏が、「私はメンソレータムの製造に臨んで、その利益の 1 割りを神様に捧げよう、そしてそれをキリスト教宣伝や社会教育などのために寄付しようと堅く心に誓って実行したので、商売は次第に恵まれ、毎年利益の 10 分の 1, 2, 3, 4, ... と、そして遂には 10 分の 9 まで捧げて、10 分の 1 で生活費は十分賄えるようになった。最後の望みとして、私は自分に与えられた財産を全部神に捧げて死にたい」と真実をこめて語った。

ハイド氏は、ポケットからメンソレータムを出して、「この薬を日本でも売って見たらどうか」と言われたのである。この数個のサンプルが、後年近江兄弟社の財源として、建築の仕事とともに、役立っきっかけとなった。



昭和初期の保育風景